

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372400954		
法人名	社会福祉法人 熊本東翔会		
事業所名	グループホーム たいめい苑		
所在地	熊本県玉名市岱明町古閑388番地		
自己評価作成日	平成29年9月20日	評価結果市町村報告日	平成29年11月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市北区四方寄町426-4
訪問調査日	平成29年10月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームで食事作りを行っている。料理の下ごしらえ、つぎ分けなど入居者と一緒に行っている。また、毎月、第1、第3火曜日に少人数で買い物に出かけて気分転換を図っている。  
 研修: 新任研修、現任研修、職員全体研修、キャリアパス研修等を定期的に開催し、知識、技術、人間性の質の向上に努めている  
 連携: 当事業所以外の施設、事業所と連携を図り、必要時の応援体制が得られている  
 接遇: 入居者お一人お一人をかけがえのない存在としてホスピタリティ豊かなケアに努めている  
 自己決定: 自宅のように安心して生活出来る様に自己選択自己決定を尊重し、主体は誰なのかを考え、その人らしさを大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に親しまれた公園に隣接し、地域交流室の設置等、介護・認知症の啓発等の福祉拠点としての地域の役割を担う法人施設のなかの事業所である。研修や行事、日頃の連携も強く、職員や入居者と家族にとっては大きな安心となっている。職員は常に学び自分自身を省みる姿勢を持ち、活発な意見を出し合いながらケアに臨んでいる。また業務中の互いの気付きを伝えあえる体制が構築されており、勤務年数・経験年数に関わらず、共に入居者と向かう姿が表れ、仕事への意欲が見られる。入居者は職員と過ごす穏やかな時間の中、本や新聞を読んだり折り紙をしたりと思いつきに過ごし、昼食の時間には笑顔で語り合う姿が印象的であった。今後も入居者の「日常生活」を大切に、行事計画の有りようとは又違った毎日の楽しみや喜びを感じるホームとして前進される事を期待します。認知症になっても地域で暮らせる事の喜びを、本人や家族、職員、ホームに関わる人々と共有出来る拠点としての活躍をお願いしたいと思います。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のグループホーム部会議にて理念の唱和を行い、日頃のケアの振り返りを行っている。	理念は事業所に掲示し、毎月の会議にて振り返りを行い業務にあたっている。入職時には法人全体で研修があり、理念についても学び、ケアにあたるための基となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	年2回春、秋の地域の公役に参加している。また、当施設において月1回、地域の民児員の方と意見交換会を行っている。	事業所は地域の方々が集い町の納涼祭が行われる公園に隣接しており、また敷地内には地域交流室を備える等、高齢者支援の大きな役割を持っている。入居者も納涼祭や地域行事への参加で交流を図っている。	法人としての活動は地域との繋がりが大きく交流も見られますが、グループホーム入居者の「生活」で、日常的な地域交流への更なる工夫に期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、準備、検討中の段階であるが、当施設において、地域の方々と茶話会を実施したい。その中で意見交換を行い、認知症の理解や支援方法など地域へ発信したいと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では開催時期に合わせたテーマで報告を行い、出席者から意見を頂き、サービスの質の向上に繋げている。	2ヶ月に1度の運営推進会議には行政、地域・法人・事業所・家族代表が参加し、其々の立場での意見交換も行っている。会議では入居者の健康状態や日々の活動報告だけでなく、意見交換も活発で、行政と地域を結ぶ場ともなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市役所からも参加頂き、グループホームの取り組み、実情等の報告を行い、関係性の構築に努めている。	運営推進会議には市役所と地域包括支援センターの出席があり、日頃から入居者の手続きや相談・報告等で連絡し、情報を交換し合い、協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自事業所からも抑制拘束虐待廃止委員会に委員として参加し、毎月の委員会に出席している。その中で身体拘束についての禁止行為などの理解を深め、実践に繋げている。	職員は法人組織の委員会に所属し、現状報告や事例について学んでいる。委員会での内容は事業所でも共有を図り、職員の理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	抑制拘束虐待廃止委員会に職員が参加し虐待防止の意識を共有している。虐待ゼロの手引きなどを用いて虐待防止に努めている。		

グループホームたいめい苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立支援事業と成年後見制度を利用されている入居者はおられないが、今後、成年後見制度を利用する予定で準備されている方はおられる。各制度について学ぶ機会を持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	グループホームのケアマネジャーが契約時にご家族の不安や疑問点をお尋ねし、説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、電話の際、担当者会議、家族交流会、茶話会など入居者、ご家族が意見を言える機会を設けている。	家族の面会時には職員より声を掛け、入居者の状況を報告すると共に意見を頂く機会としている。家族と入居者での外出もよく見られ、また日常生活の写真等で家族と職員が話題を豊富に持つことは良好な関係作りに繋がり、意見を出して頂く機会にもなっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談、グループホーム部会議などで職員の意見や提案を聞く機会を設けている。内容によっては運営会議まで報告する事としている。	日頃の業務の中で主任等は職員に声を掛け、また互いに声を掛けあい意見を出しやすい体制が整っている。職員も声を上げやすく感じ、またその意見を聞いてもらっている実感は仕事へ前向きな姿勢を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、職員は自己評価を行い、それを上司が評価している。必要に応じて個別面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会はあるし、本人が希望して受ける場合もあるし、上司が指名して受ける場合もある。部内のOJTも行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とのオリエンテーションや交流会の機会もあり、ネットワークづくりを行っている。法人外の勉強会にも参加し、学んでいる。		

グループホームたいめい苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族からもアセスメントを行い、ご本人の情報収集を行っている。ご本人ともコミュニケーションを取りながら、要望や不安、悩み事などを聞き、関係性づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にもご家族から意見、不安な事、悩み事を伺い、把握に努めている。その後も連絡を取りながら必要とされている事の見極めをし、関係性づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネジャーと連携を取りながら、ご本人やご家族がどんなサービスを必要とされているかを把握しサービス導入に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事、出来ない事を把握し、出来る事は一緒に行ってもらっている。サポーターからパートナーの関係性を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とも密に連絡を取りながら、協力をお願いしている。ケアプランにもご家族に協力頂くように記載し、事業所とご家族が共に支えていく関係性を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人が面会来られたり、友人が通われているデイサービスに遊びに行かれたり出来るようにして馴染みの関係が途切れないように支援している。	面会は自由で、家族行事等で家族との外出も多い。隣接する公園で行われる納涼祭には地域からたくさんの方々が集まり、共に時間を過ごしている。毎週敷地内デイサービスへ友人に会いに行く等、個別の支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の中に職員が入り、入居者同士がコミュニケーションが取れたり、落ち着いて過ごせる環境となる様に配慮している。		

グループホームたいめい苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も年賀状のやり取りを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションをとりながら、ご本人の好きな事、こだわり等の把握に努めている。主体は誰なのかを考え、検討している。	洗濯物たたみや入浴等、生活の中での何気ないひと時の会話で出た言葉を大切にしている。家族との触れ合いの中で入居前のことが話題になることもあり、一人ひとりの対応に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やグループホーム入居前の施設や病院から情報収集を行い、生活の継続性がでている様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを行い、把握するようにしている。得た情報は、日常の記録やケアプランに記載するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎のモニタリング、状態の変化時にカンファレンスを行い、課題解決に努めている。ご家族からの意見を頂き、ケアプランの作成を行っている。	担当者を中心とした職員の意見により3ヶ月毎にモニタリングを行い、入居者の日常生活でのちょっとした状態変化も見逃さず、必要に応じ随時カンファレンスを行っている。介護計画作成時には家族にも相談し、現状に即した介護計画となる様作成を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践など日常の記録に記載している。また、情報の共有の為にもし送りノートを活用し把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスにお知り合いが来られている日にはグループホームから遊びに行かれています。リハビリ部からも個別リハビリに来てもらうなど、ご本人のニーズの実現の為に柔軟に対応している。		

グループホームたいめい苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族、親戚の方、ご友人がいつでも面会が出来る。そういう方に会われて、お話をされる事でグループホームでの生活をされている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、ご本人、ご家族が決められている。そのかかりつけ医と連携を取りながら、必要な医療が受けられるように日頃から情報交換を行いながら、関係性の構築に努めている。	入居前からのかかりつけ医を継続して受診できるよう支援しているが、現状はほとんどが協力医を希望している。基本的に定期受診は家族に協力を依頼し、職員が付き添う場合もある。その他専門医は往診や個別に通院する等それぞれに対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の状態に変化があった場合は、グループホームの看護師やたいめい苑の看護師が連携して応急処置や必要に応じては病院受診の必要性を協議している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には当日、または翌日には看護サマリーを病院に提出している。お見舞いの際も情報を頂いたりしている。退院時もカンファレンスが行われる際は参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについては契約時に内容やグループホームで出来る事、出来ない事を身元引受人に説明を行っている。ターミナルケアを希望される場合はご家族と情報交換、情報の共有を行いながらご家族と共に取り組んでいる。	契約時に重度化や終末期に向けた方針を伝え同意を得ている。家族・かかりつけ医・看護師の協力体制も整っており、看取りの経験も重ねている。医療を必要とされる場合は病院への移転希望もあるが、看取りを自然のことで受け入れ、関係機関と協力しながら取り組みを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回、救急の日に合わせて心肺蘇生法やAEDの使用法の勉強会を実施している。また、環境整備委員会を中心に部内の緊急連絡網の連絡訓練も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回(5月、11月)に昼間想定、夜間想定で避難訓練および消火訓練を実施している。	年2回の訓練は、日頃の職務体制(職員数)で入居者参加にて行っている。職員には地元の消防団員もおり、また運営推進会議でも報告、協力を依頼している。	

グループホームたいめい苑

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	グループホームのケア理念にも尊厳について掲げているので部会の前に全員で唱和している。 立派に社会生活を営まれてきた先輩として敬意、接する事を心掛けている。	事業所では言葉遣いを特に大切にしており、職員にも日頃から伝えている。気になる場面ではその場で職員同士注意しあい、続く場合には会議時の話題にあげ、全体で考え検討している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中からも何を望んでおられるのかなどをお聞きしている。自己決定をしやすい質問で働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員主導とならないように入居者に尋ねながら合わせたペースで過ごして頂くように心掛けている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご希望されれば月に1回、出張の理髪があるので散髪や髪染めを行っている。ご家族が行きつけの床屋、美容室にお連れされる場合もある。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ(もやしの根切り)やつぎ分け、食器洗いなど出来る事を把握し、無理のない様に職員と一緒にやっている。	献立は季節感や入居者の好みを考えて職員が作成し、調理も職員が担当制で行っている。入居者は下拵えや小鉢の盛り付け、食器洗い等、出来る範囲での関わりを持つ。職員は食事時には入所者と食卓につき、介助や会話を楽しみ共に時間を過ごしている。	食事時には食卓の会話がはずみ、また食事を促す言葉掛けも自然で、入居者の笑顔が見られました。匂いを感じたり味見をしたりと、今後も工夫された五感を使った食事への関わりに期待しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事・水分チェック表に記載し、食事、水分量をチェックしている。摂取量が少ない場合は好まれる物を召し上がって頂いている。主治医に相談し、エンシュアリキッドを処方されている方もおられる。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは実施出来ていないが、義歯を外された時等は洗浄を行っている。 ご自分で歯みがきをされる方は歯磨き粉を付けてお渡ししている。能力に応じたケアを行っている。			

グループホームたいめい苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をもとに排泄パターンの把握に努めている。その方の排泄パターンに合わせたトイレ誘導を行い、出来るだけトイレでの排泄に心掛けている。	排泄チェック表を用いてそれぞれのパターンを把握し、日中は入居者の様子も察して声掛け誘導し、トイレでの排泄に努めている。夜間はパットや紙おむつの利用もあるが、出来るだけ自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排泄チェックを行っている。排泄を促すような献立、水分調整、主治医からの緩下剤の処方、週1回のリハビリ体操の参加等を促し、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めておらず、入浴チェック表を確認しながら声を掛けている。断られたら、無理強いせず、翌日に行ったりしている。	入居者の希望や体調に合わせ、週2回以上の入浴支援を行っている。汚染時には清拭や部分浴にて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温、照明の明るさ等、ご本人に確認して快適な環境づくりに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬に変更が生じたら申し送りノートに記載し、周知している。注意が必要な副作用があれば併せて記載している。副作用による体調の変化や行動に変化があれば日常の記録に記載している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、食器洗い、食事の下ごしらえ、買い物、友人との時間などその方の出来る事や楽しみを日頃の生活の中で見つけて支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	第1、第3曜日買い物の日として職員と一緒に少人数で買い物に出かけている。また、ご家族が散髪、外食、ご自宅にお連れされる事もある。	月2回の買い物の日には入居者も出かけ喜ばれている。また誕生月にはショッピングセンターでおやつを食べたりと楽しみも計画されている。季節毎の行事による外出も計画され、また家族協力による外出もよく見られる。敷地内には四季折々の花があり、季節を感じる事ができる。	様々な工夫をこらした行事やイベントが計画されていますが、「日常生活」としての外出や外気を感じる工夫が欲しいと感じます。

グループホームたいめい苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理をされている方はいない。(小銭をお持ちの方はおられる)買い物や何かを購入の際はお小遣いとしてお預かりしているお金があるので、そちらで支払をされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、電話を掛けたり、手紙を書かれたりする方はおられないが、もし、希望があれば支援する。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地のよい空間となるように、室温、明るさ、テレビの音まど不快にならないように配慮している。不穏な入居者がおられる場合は職員が中に入り、他の入居者に配慮している。季節に合った雰囲気作りにも努めている。	共有空間は明るく清潔なりビングと畳の間もあり、新聞を読み、折り紙をたのしみ、職員と洗濯物をたたんだり、入居者それぞれの顔が見られる。掃除も行き届き、入居者の傍らには職員が寄り添い、穏やかな時間が流れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の関係性を把握し、気の合う方同士が隣り合ったり、過ごし易い居場所等の工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	たいめい苑では生活の継続性を大切にしている。ご家族と相談して、今まで使い慣れたものや馴染みのものをそのまま持ち込んで使って頂き、グループホームを我が家のように感じて頂けるよう工夫している。	居室はフローリング、畳と用意され、入居前の生活習慣に応じてベッドや布団を利用している。仏壇を置かれている居室もあり、面会の家族も掃除に協力して下さったりと、日常の生活が営まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示をしたり、夜間は居室の照明を照らし導線を確認したりして安全に過ごせるよう工夫している。また居室入り口に名前札を出してご自分の居室と分かるように工夫している。		

## 2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームたいめい苑

作成日 平成 29年 11月 21日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	49	外出行事としてではなくちょっとした日常生活の中での外出が出来ていない。	入居者が希望された時に少人数ずつで出掛ける等して柔軟に対応して季節感を感じて頂きたい。	天気の良い日には近所の神社や公園を散歩したり外でお茶を飲んだり外での活動を増やす。	1 2ヶ月
2	48	グループホーム裏の畑の活用が出来ていない。	季節の苗植え、種まきに向けて入居者と一緒に準備し、収穫までの楽しみや収穫の喜びを共に味わいたい。	入居者と一緒に何を植えるか等を検討し、畑作りから収穫までの計画を行う。年間を通して畑での活動を充実する。	1 2ヶ月
3	29	地域の催し物などへの参加が少ない。	どんどや、町の福祉祭りなど地域の催し物へ出掛けて地域交流を図ったり入居者に楽しんで頂ける機会を増やす。	地域の年間行事を把握し他部署の協力を得ながら外出の支援を行う。	1 2ヶ月
		目標達成計画においては、今後、継続して行う目標である為、目標に要する期間は1 2ヶ月と記載する。			

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。